



ナバナ

春に先駆けて季節を味わう

ナバナは童謡でも歌われる春の花。つぼみと若い茎葉を食べる野菜で、

種子からは菜種油が取れます。味に癖がなく、



サラダやあえ物、おひたしで食べます。晩夏から初秋に種まきし、年内から早春に収穫します。

【品種】

和種と洋種の2種類があり、和種

図1 畑の準備

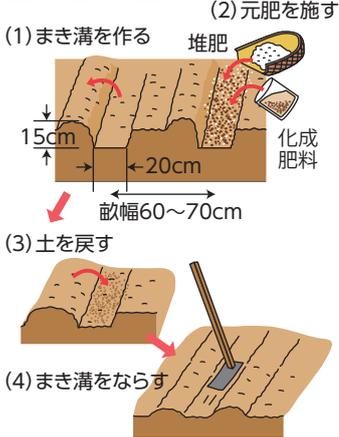


図2 種まき

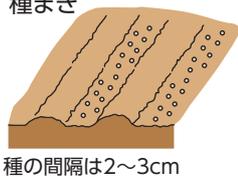


図3 間引き

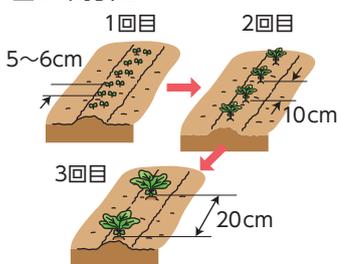


図4 追肥

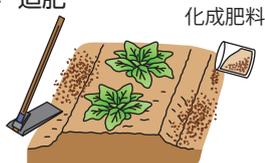
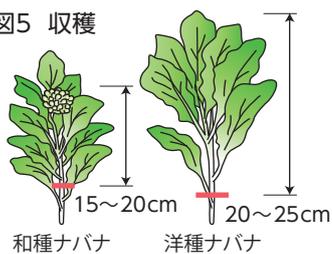


図5 収穫



には早生種に「秋華」(タキイ種苗)、「早陽一号」(サカタのタネ)、「CR京の春」(丸種)、中晩生品種に「花飾り」(サカタのタネ)、「CR華の舞」(丸種)などがあります。洋種には、「三重なばな」や「のらぼう菜」などがあります。

【畑の準備】

種まき、または植え付け2週間前に、1平方m当たり苦土石灰100gをまき、深く土を耕しておきます。1週間前に畝幅60〜70cm、幅20cmくらい、深さ15cmくらいの溝を掘り、この溝1m当たり元肥として化成肥

料(NPK各成分10%)200g程度と堆肥2kgを施して土を戻し、鍬でまき溝が平らになるようにならします(図1)。

【種まき】

直まきでは、まき溝全体に2〜3cmくらいの間隔に種まきします(図2)。覆土後に十分灌水し、べたがけ資材で覆って発芽や幼苗を保護します。なお、苗作りをする場合、9cmポリポットに5〜6粒まき、2回に分けて間引きして本葉5〜6枚の苗に仕上げ、株間20cm間隔で畑に植えます。

【間引きと追肥、土寄せ】

葉が触れあう程度に成長する度に間引きして成長を促し本葉10枚ほどで株間を20cmくらいにします(図3)。最後の間引き後、畝の長さ1m当たり化成肥料30g程度をまき、軽く耕し、土寄せをしておきます。その後、1カ月に1回の割合で同様に追肥をします(図4)。

【病害虫の防除】

生育初期は防虫ネットで被覆し、その後アブラムシには粘着くん液剤など、アオムシ、コナガにはアファーム乳剤、トアロー水和剤CTなどを使つて防除します。

【収穫】

とう立ち後、和種ではつぼみが膨らんできたら、開花前に先端15〜20cmを収穫します。洋種では本葉15枚くらいで上部を摘心して脇芽を伸ばし、先端を20〜25cmで収穫します。いずれも、各節から多数の脇芽を同様の長さで収穫します(図5)。